

第1回 栗原市総合計画審議会 会議録

日時：平成23年6月13日（月） 午後3時～
場所：市役所2階庁議室

1 任命発令書交付

2 開会

3 挨拶

○栗原市長 佐藤 勇

・当初の予定では3月28日に第1回目の審議会を開催し、4月からご審議いただくこととしていたが、東日本大震災の発生により、本日まで開催が延期となった。

・今年度は「まちづくり」の最上位計画である「栗原市総合計画」前期基本計画の最終年度であることから、本年度において、平成24年度から平成28年度までの5年間の後期基本計画を策定することとなる。

・平成20年岩手・宮城内陸地震、今回の東日本大震災と2度の大きな震災に見舞われたことを踏まえ、震災からの復旧・復興を、総合計画に位置付けることの検討をお願いしたい。

・計画策定時からの社会・経済情勢の大きな変化、普通地方交付税の合併算定替による交付税の減額を見据えながら、緊急性、必要性、事業効果を十分に勘案した計画となるよう留意しながら、有利な合併特例期間内に栗原市の基盤を盤石なものとするための後期基本計画にしなければならないと考えている。

・委員の皆様におかれては、忌憚のないご意見を賜りながらご審議くださいますようお願いしたい。

4 自己紹介（委員・事務局）

5 会長及び副会長の互選について

事務局案のとおりとなり、次のとおり決定。

会 長：大村 虔一（NPO法人都市デザインワークス 顧問）

副会長：小山 信康（栗原市企業連絡協議会 会長）

6 協議事項

(1) 栗原市総合計画後期基本計画策定方針について

(委員)

市の方で各部局が行う自己評価というのがこれから次回ぐらいに出てくるかと思うが、それに対してこういった計画を策定する際の最近の傾向として市民評価を行うことが多いが、実施の予定はあるか。パブリックコメントは行うかと思うが。

(事務局)

まず内部評価を行うこととしている。外部評価の準備はまだできていない。内部評価を行い、その結果が妥当か市民の皆様へ投げかけるということについて考えていかなければならない。内部評価、外部評価と同時に進めていくことは現状として難しいと認識している。

(委員)

たぶん仕組みができていないということで難しいんだろうと思う。どういう視点でどう評価するかということのを早い段階で市民に投げかけておいて市民がやってみるといふものが、この頃あちこちで出てきているのですが分かりました。

(委員)

市民とのズレがどのようなことがあったのか、それを見るのが今後の作成に役立つのではないか。

(委員)

出来上がった総合計画の冊子に市民が目を通してしているか。忙しくて目を通さないということはよくあるので目を通すような意識付けが必要。自分たちが栗原に住んでいる、よくしたいというような思いの意識付けはしていきたい。

(委員)

パブリックコメントをいただくということがそのいいきっかけとなったりもする。

(委員)

今日初めて計画に目を通した。毎戸に配布はしているのか。

(事務局)

冊子は毎戸配布はしていない。4頁の概要版を作成し、毎戸配布するとともに、市政懇談会において配布している。

(委員)

配布された市民にとっては一方通行であって、自分がどう受け止めどう思っているかという考えを返す機会がない。自分たちの意見が反映されない。配布されて、ある一定の期間が過ぎた段階で、意見をアンケート等により回収する、反映していくことが必要ではないか。広く、地域別でもいいので集約し回収する機会を定期的に設けると、基本構想の実現に近づいていくのではないか。

(事務局)

計画の内容が市民の皆様に伝わっていないということは事務局としても非常に残念であるとともにそのための努力は必要だと認識している。地区全体での意見のやりとりということであれば市政懇談会という場、もう少し狭い範囲であれば「い・ど・う市民セミナー」という出前講座のメニューの中に総合計画についてというものがあり、年に5～10箇所ぐらいの地区から開催の要望があり、その場で担当者と意見交換というようなことは実施しているが、市内全体の意見の集約はできていないという現状は認識している。

(委員)

なんとか工夫をしていただいて、みんなの声がうまく反映されるような、子どもの施策については子どもの声、子育てについてはお父さん、お母さんの声が反映されるようなことが大切だと思われるので、そういくように努力していただきたい。

(委員)

我々が後期計画を策定するにあたってねらいとするところは、前期計画の実施によりどれだけ効果があったのか、市民がいかに感じたか、それらをパブリックコメント等で吸収するものではないでしょうか。

(委員)

前期がここまでやったということがみんなに分かる仕掛けが必要。

(委員)

毎月市からの広報、各種団体からの広報いろいろ出ているが、なかなか市民に見ていただけていないものと思っている。行政としてどれだけのものを施策

として執行しているか、その成果がいかほどに表れているか、その辺のところ
が今回パブリックコメントで吸収できればいいのではないか。

(委員)

めんどくさいものが市からきたなあ、というのではなく見てもらえるよう
な、例えば今までの成果の表現であるとか、それに対する行政サイドの評価で
あるとか、その辺を工夫して作っていただくとよいのではないか。

(事務局)

複数の委員さんから前期基本計画5年間の評価を市民の皆様に見てもらい、
という意見があったが、パブリックコメントを2回実施する予定としている。
1回目は7月中旬から8月半ばまで、2回目は10月半ばから11月半ばまで
の予定だが、災害からの復興という部分を基本構想案に追加した形で出すが、
同時に前期計画の5年間の進捗状況の評価といったものも提示するよう作業を
進めていきたい。

(委員)

いろいろな部署でパブリックコメントを行っているがどのぐらい意見が寄せ
られるものか。

(事務局)

市全域に関わる案件についてはパブリックコメントを行うこととなっている。
寄せられる意見の件数については千差万別である。多くても100件程度。

(2) 今後のスケジュールについて

(委員)

10年ほど前までの総合計画の人口推測は増えることを前提としていた。し
かし、栗原市の合併直後ぐらいから減ることを前提とした、現実に則した計画
にしなければいけないという考えが主流となった。

前回の策定の際、計画に記載した数字よりももっと人口が減るだろう、それ
に伴う学校統合の問題も発生するのではないかと思っていたが、前回は合併直
後ということもあり、それでは夢がない、という考えの委員さんもいたことか
ら前回の計画には入れなかった。今回は計画の半分が過ぎたことからいろい
ろなことが見えるようになってきた。あまり無理に作らずに本当にいい栗原にす
るための考え方を整理してまとめていくと、後期の5年間の計画ができるので
はないか。

(委員)

市の計画の検証等というのは本来であれば民間団体が率先して行うべきものと思う。そのことは重々承知しているが、市と協力して物事を進めていこうという思いもあるため、批判めいたこともそんなにできるわけでもない、ということがあるが、私たちの団体、他にも栗原市内たくさんの各種団体があるのでそれら民間団体で検証を進めることが重要だと皆さんの意見を聞く中で感じた。

(委員)

足を引っ張っているように見えるかもしれないが、実はそうではなく、街をよくするための現場の人の声である。いい形で協力いただければありがたい。

(委員)

震災からの復興を盛り込むということだが、どのように盛り込むのか。

(事務局)

基本構想の「将来像」部分は現在1～5までで構成されているが、ここに6つめの柱として震災からの復興を盛り込むことを考えている。この将来像を実現するための基本方針、後期基本計画の施策と目標、具体的取組とこれまでの体系と同様の形で盛り込んでいくことを考えている。

(委員)

前回とは役割が違う。今回は骨組みは変わらず、後期に何を進めていくかということを考える。「市民が創る くらしたい栗原」という言葉はすごくいいタイトルだと思う。最初は市民が創るのは当たり前のことなので、“市民が創る”という部分はいらなかな、と思っていた。“くらしたい栗原”に全てが盛り込まれている。だが、今日皆様の意見を聞いていて“市民が創る”という部分はやはり必要だったのかなと思う。問題は広報にあったのではないかな。市民の皆さんにもっと理解してもらってどんどん参加してもらう必要があったのではないかな。そのことを大きな反省点として後期の改善を図っていく必要がある。また、前期の検証をどのように行うか。市では各部が項目ごとに検証を行うということだが、大事なのはそれぞれの分野を市民がどう受け止めたのか、どう取り組んできたのか、どう良くなったのかということがわからないと後期計画を作れないのではないかな。最低限おさえなければいけないものがあると思うので、そういったデータはいただきたい。内容の浅さ、深さは問わないので市民がどう受け止め、どう参画し作ったのかというところを知りたい。

(委員)

誰に対しても分かりやすい計画、分かりやすい検証が大事。やはり範囲が広いので、例えば幸せ度数などの何か分かりやすい目安となる尺度が必要ではないか。

市民に訴えかけるところは、ポイントを強調していかないといけない。必要なデータ、ここだけはお知らせしたいというところは選別すべきでないか。

(委員)

市民に直結する指標のようなものをぜひうまく取り出していただいて、行政全般からいくと膨大な資料になってしまうが、ポイントを絞って分かりやすい聞き方というものがあると思うので、その辺をご吟味いただきたい。

(委員)

前期は基本構想に基づいてこの分野で何を実施したか、それにより目標にどれだけ近づいたか評価が必要、それがあって後期の計画に入っていく。そういったところを具体的に示してもらえれば市民もアンケートなりにこたえやすくなるのではないか。市民として返したいものがあるが、一方的に見せられても「はい…」で終わってしまう。

(委員)

お互いの会話が成立するような最初の投げかけ、行政からの投げかけがとても大切だ、ということ。ぜひそういうやり取りができて、ここは本当に良くなったよ、という声が出てくるような格好の自己評価、内部評価が必要。テクニカルな内部評価の仕方はけっこうめんどくさくて、指標化して作ることで感覚的には作れないものであり、市民に伝わりにくいものとなるということもある。

(事務局)

行政評価システムというものを総合計画の評価手法に取り入れる予定はない。市民意識に直結するデータを委員の皆様提示したい。その算出方法、抽出方法については検討したい。

(委員)

何回でも計画の周知を図ってほしい。

(委員)

一生懸命考えてできあがったものは市民にまず知っていただいて、評価もあって然りと思う。

市から出るものは全てかたいイメージがあるので、堅苦しくない市民の声のような気軽に参加できるものがあると、市民も市政に携わっているという意識が醸成されるのではないか。

(委員)

人口減に順応するのではなく、少なくとも歯止めをかけるような計画書であってほしい。

(委員)

人口がどんどん増えてという計画は20世紀の日本の計画、同じ20世紀でもヨーロッパの方ではこれから人口が減っていく中でどうやってその地域を守っていくかということをやってきた。今我々が直面している話は、ヨーロッパ辺りの計画に近い、という風に思えば、じゃあその間にヨーロッパはなくなったかということではなく、みんなで工夫して支えて元気にやろうとしているわけだから、そういう方向を本気になって考えなければいけない。ぜひ色々ないいアイデアをいただきたい。

(委員)

総合計画というとなかなか範囲が広い。そのため、あまり欲張った考えをもっても実行できなかつたら何ともならない。前回の計画がどのような評価を得たのか、それによって市民に評価される事業を組んでいく必要があると思う。

総合計画はどの市町村も同じような内容になる傾向がある。いい案を作るということは大変だと思うがみんなで検討してやっていけばいいものができるのではないか。

7 その他

・次回日程について

次のいずれかの日程で開催することとなった。

7月 8日(金) 午前10時～

7月11日(月) 午前10時～

⇒後の調整により、次回は7月11日(月) 午前10時～開催と決定。